

## 令和2年度ネットリサーチ「救急医療」に関するアンケート結果報告書

### ■結果のポイント

- 救急車を呼んだり、呼んでもらったりした理由については、「自力で動ける状態ではなかったから」が43.0%と最も高く、次いで「生命の危機があると思ったから」が38.5%、「交通事故だったから」が20.9%と続く。
- 救急車を呼ぶかどうかの相談窓口等で知っているものについては、「#8000（茨城子ども救急電話相談）」が16.3%、次いで「#7119（茨城おとな救急電話相談）」が12.6%となっている。
- 救急車の適正利用に向けて必要な取組については、「夜間・休日に診察できる診療所の情報提供の充実」が59.5%と最も高く、次いで「救急電話相談（#7119, #8000）の充実及び普及啓発」が48.3%と続く。
- AEDの認知状況については、「使い方を学んだことがあるが、使ったことはない」が48.3%と最も高く、次いで「見聞きしたことはあるが使ったことはない」が43.5%と続く。

### ■調査結果の概要

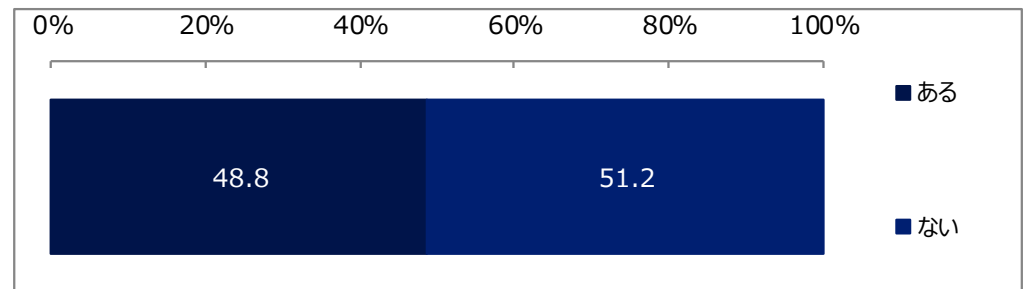
#### 1 救急車を呼んだり呼んでもらったりした経験

◇ 「ある」が48.8%、「ない」が51.2%となっている。

Q1.あなたは、救急車を呼んだことや、誰かに呼んでもらったことがありますか。

SA

	%	n
全体	100.0	1000
ある	48.8	488
ない	51.2	512



## 2 救急車を呼んだり呼んでもらったりした理由

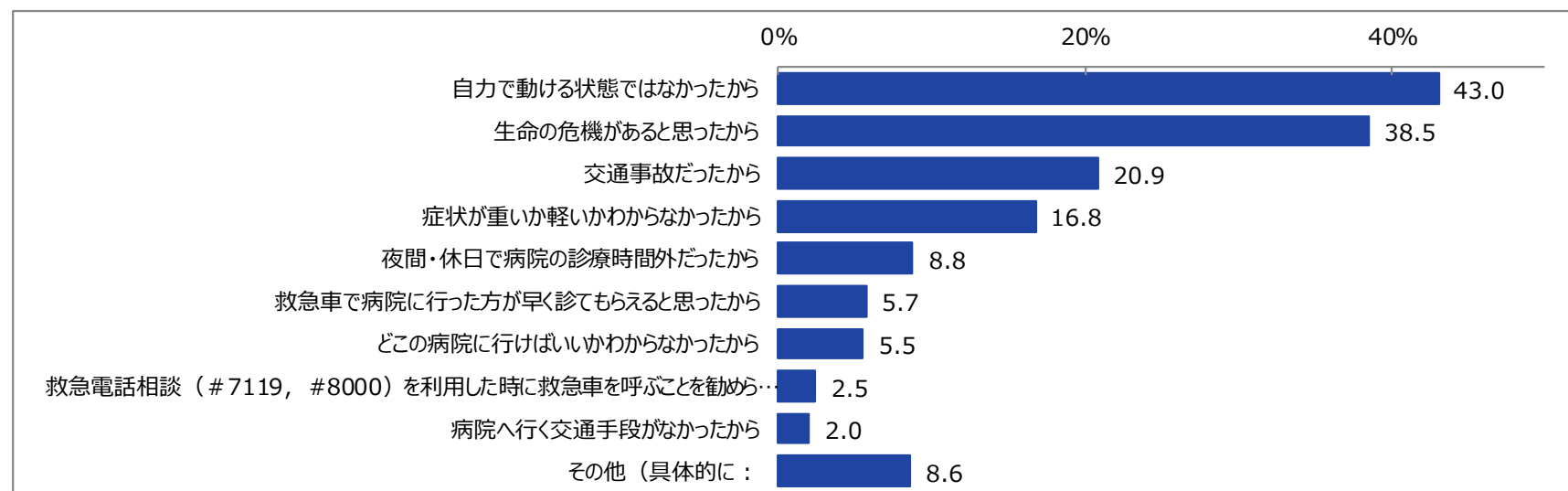
☆ 「自力で動ける状態ではなかったから」が43.0%と最も高く、次いで「生命の危機があったから」が38.5%、「交通事故だったから」が20.9%と続く。

(Q1で「1. ある」と回答した方へ)

Q2.あなたが救急車を呼んだり、誰かに呼んでもらったりしたのは、どのような理由からですか。あてはまるものをすべて選んでください。

MA

	%	n
全体	100.0	488
自力で動ける状態ではなかったから	43.0	210
生命の危機があったから	38.5	188
交通事故だったから	20.9	102
症状が重いか軽いかわからなかったから	16.8	82
夜間・休日で病院の診療時間外だったから	8.8	43
救急車で病院に行った方が早く診てもらえると思ったから	5.7	28
どこの病院に行けばいいかわからなかったから	5.5	27
救急電話相談（#7119, #8000）を利用した時に救急車を呼ぶことを勧められた	2.5	12
病院へ行く交通手段がなかったから	2.0	10
その他（具体的に：	8.6	42



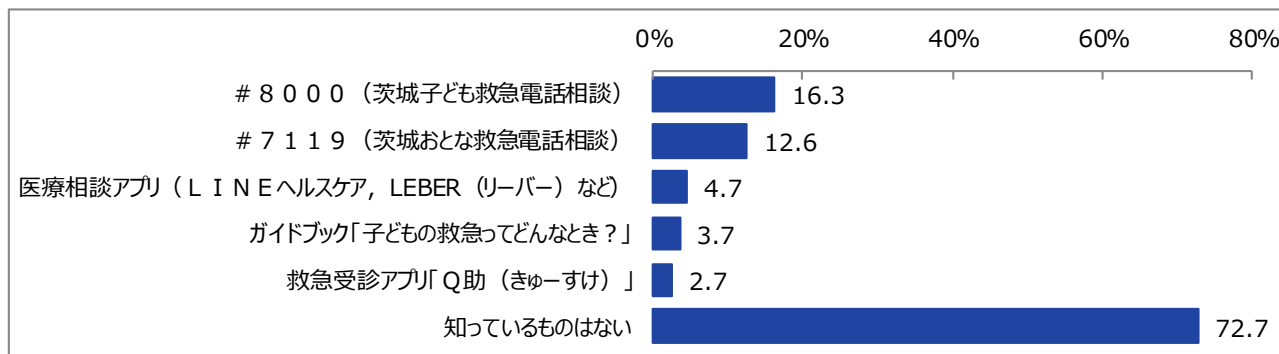
### 3 救急車を呼ぶかどうかの相談窓口等の認知状況

◇ 「#8000（茨城子ども救急電話相談）」が16.3%、次いで「#7119（茨城おとな救急電話相談）」が12.6%となっている。

Q3.あなたやあなたの家族が急な病気やけがをしたときに、救急車を呼んだほうがいいか、自分で病院を受診すればいいかを判断するために、ガイドブックや、専門家に相談できる電話相談窓口があります。この中から、あなたが知っているものをすべて選んでください。

MA

	%	n
全体	100.0	1000
#8000（茨城子ども救急電話相談）	16.3	163
#7119（茨城おとな救急電話相談）	12.6	126
医療相談アプリ（LINEヘルスケア、LEBER（リーバー）など）	4.7	47
ガイドブック「子どもの救急ってどんなとき？」	3.7	37
救急受診アプリ「Q助（きゅーすけ）」	2.7	27
知っているものはない	72.7	727



### 4 救急電話相談の認知経路

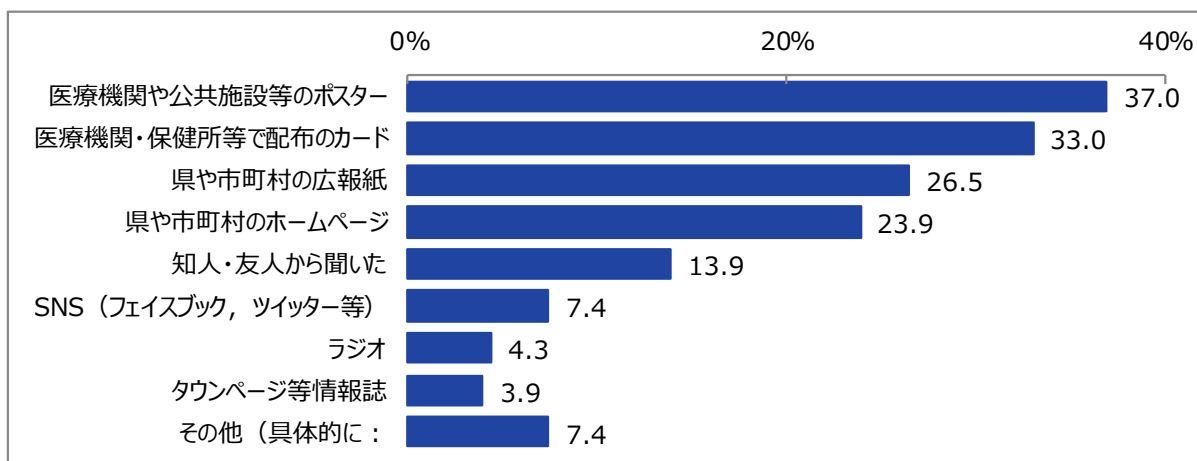
◇ 「医療機関や公共施設等のポスター」が37.0%で最も高く、次いで「医療機関・保健所等で配布のカード」が33.0%と続く。

（Q3で「1. #7119」「2. #8000」と回答した方へ）

Q4.あなたは、「救急電話相談」を何で知りましたか。あてはまるものをすべて選んでください。

MA

	%	n
全体	100.0	230
医療機関や公共施設等のポスター	37.0	85
医療機関・保健所等で配布のカード	33.0	76
県や市町村の広報紙	26.5	61
県や市町村のホームページ	23.9	55
知人・友人から聞いた	13.9	32
SNS（フェイスブック、ツイッター等）	7.4	17
ラジオ	4.3	10
タウンページ等情報誌	3.9	9
その他（具体的に：	7.4	17



## 5 利用したことがある相談窓口等

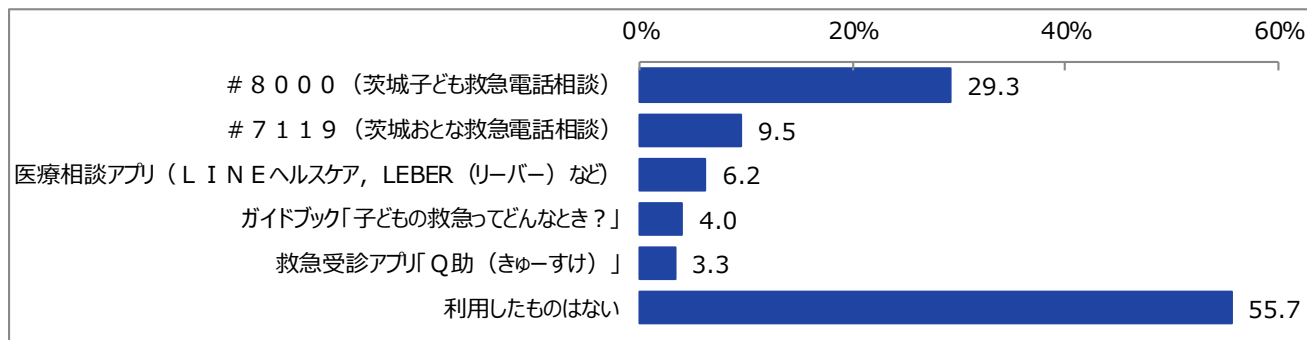
◇ 「#8000（茨城子ども救急電話相談）」が29.3%と最も高く、次いで「#7119（茨城おとな救急電話相談）」が9.5%と続く。

（Q3で1～5のいずれかを選択した方へ）

Q5.Q3で「知っている」と回答した{Q3 回答(文)}で、実際に利用したことがあるものをすべて選んでください。

MA

	%	n
全体	100.0	273
# 8 0 0 0（茨城子ども救急電話相談）	29.3	80
# 7 1 1 9（茨城おとな救急電話相談）	9.5	26
医療相談アプリ（LINEヘルスケア、LEBER（リーバー）など）	6.2	17
ガイドブック「子どもの救急ってどんなとき？」	4.0	11
救急受診アプリ「Q助（きゅーすけ）」	3.3	9
利用したものはない	55.7	152



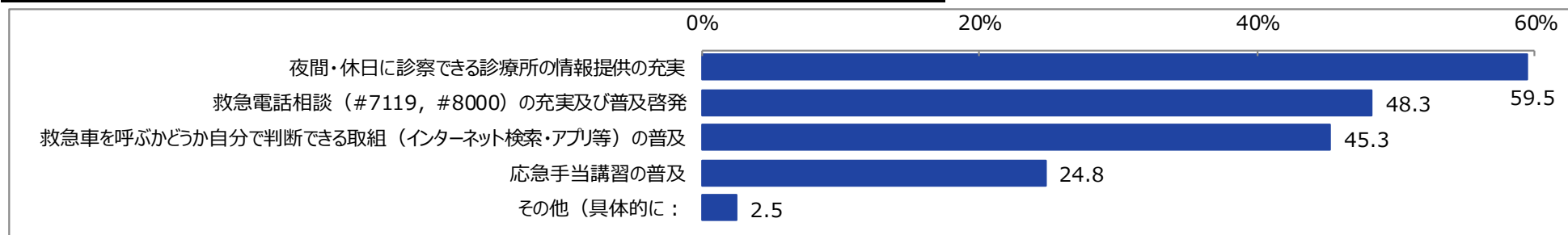
## 6 救急車の適正利用に向けて必要な取組

◇ 「夜間・休日に診察できる診療所の情報提供の充実」が59.5%と最も高く、次いで「救急電話相談（#7119, #8000）の充実及び普及啓発」が48.3%と続く。

Q6.あなたは、救急車の適正利用（不必要な要請を避ける等）に向けてどのような仕組みが必要であると考えますか。あてはまるものをすべて選んでください。

MA

	%	n
全体	100.0	1000
夜間・休日に診察できる診療所の情報提供の充実	59.5	595
救急電話相談（#7119, #8000）の充実及び普及啓発	48.3	483
救急車を呼ぶかどうか自分で判断できる取組（インターネット検索・アプリ等）の普及	45.3	453
応急手当講習の普及	24.8	248
その他（具体的に：）	2.5	25



## 7 AEDの認知状況

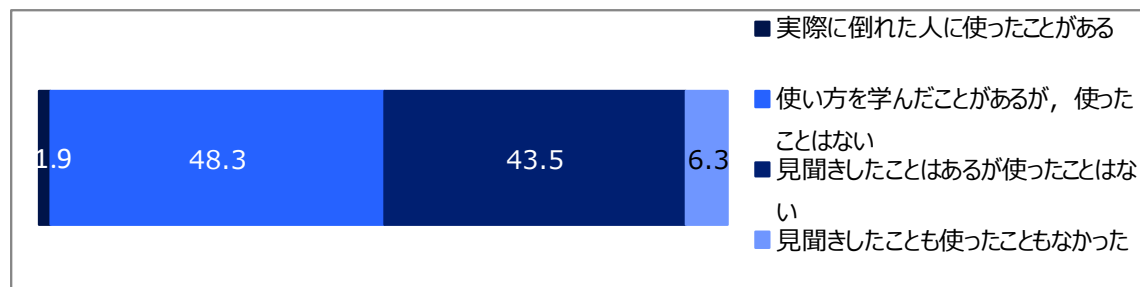
◇ 「使い方を学んだことがあるが、使ったことはない」が48.3%と最も高く、次いで「見聞きしたことはあるが使ったことはない」が43.5%と続く。

ここからは、心臓が止まった人に電気ショックを加えて心臓を動かす「AED（自動体外式除細動器）」という機器についてお尋ねします。

Q7.あなたは、AEDについて見聞きしたり、使ったりしたことがありますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

SA

	%	n
全体	100.0	1000
実際に倒れた人に使ったことがある	1.9	19
使い方を学んだことがあるが、使ったことはない	48.3	483
見聞きしたことはあるが使ったことはない	43.5	435
見聞きしたことも使ったこともなかった	6.3	63



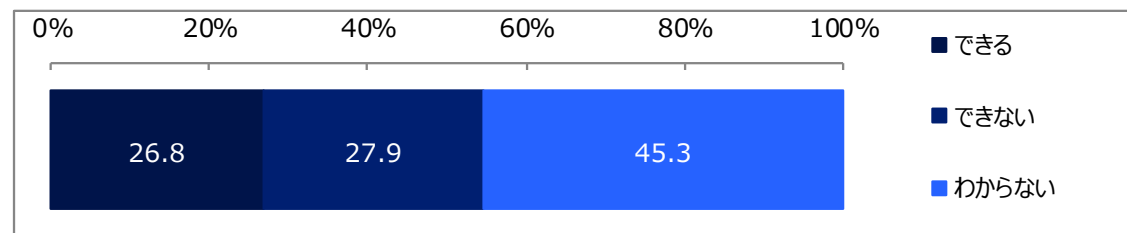
## 8 AEDの使用の可否

◇ 「できる」が26.8%となっている。一方で、「できない」が27.9%、「わからない」が45.3%となっている。

Q8.もし、見知らぬ人が目の前で突然倒れた場合、その場にAEDがあれば、あなたはその人にAEDを使うことができますか。

SA

	%	n
全体	100.0	1000
できる	26.8	268
できない	27.9	279
わからない	45.3	453



## 9 AEDを使えない理由

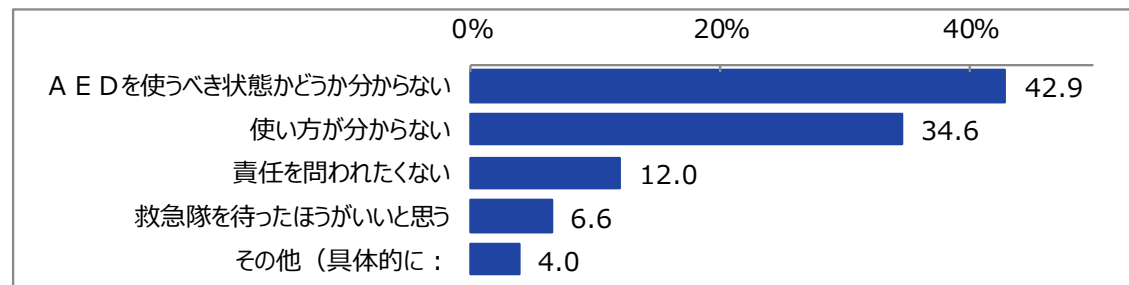
◇ 「AEDを使うべき状態かどうか分からない」が42.9%と最も高く、次いで「使い方が分からない」が34.6%と続く。

(Q8で「できない」「わからない」と回答した方へ)

Q9. AEDを使えない、またはAEDが使えるかどうか分からないと思う一番の理由は何ですか。最もあてはまるものを1つだけ選んでください。

SA

	%	n
全体	100.0	732
AEDを使うべき状態かどうか分からない	42.9	314
使い方が分からない	34.6	253
責任を問われたくない	12.0	88
救急隊を待ったほうが良いと思う	6.6	48
その他（具体的に）	4.0	29



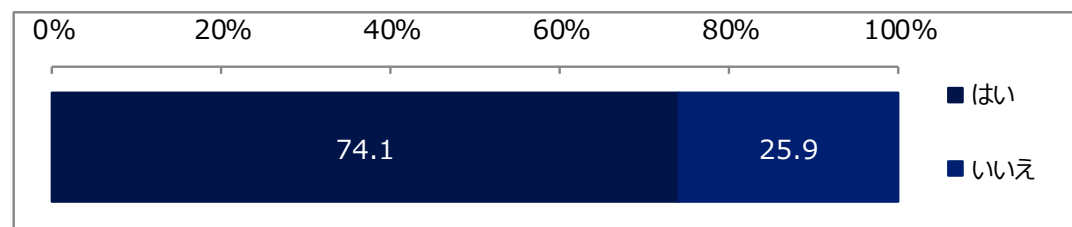
## 10 AEDの音声案内

◇ 音声案内にしたがって使用できることを知っているかどうかについて、「はい」が74.1%となっている。

Q10.AEDは、音声案内にしたがってだれでも使用できることを知っていますか。

SA

	%	n
全体	100.0	937
はい	74.1	694
いいえ	25.9	243



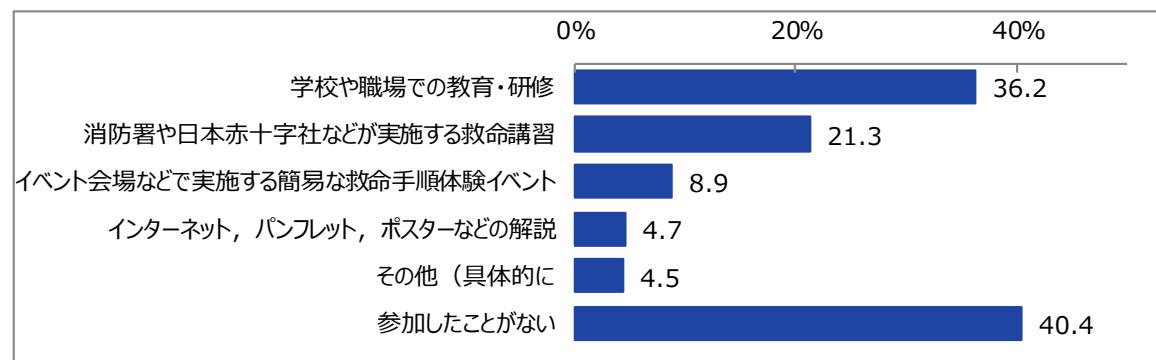
## 11 心肺蘇生の講習会等への参加状況

◇ 「学校や職場での教育・研修」が36.2%、次いで「消防署や日本赤十字社などが実施する救命講習」が21.3%となっている。一方で、「参加したことがない」が40.4%となっている。

Q11.あなたは、これまでAEDの使い方を含む心肺蘇生の講習会などに参加したことがありますか。参加したり、見たりしたことがあるものをすべて選んでください。

MA

	%	n
全体	100.0	1000
学校や職場での教育・研修	36.2	362
消防署や日本赤十字社などが実施する救命講習	21.3	213
イベント会場などで実施する簡易な救命手順体験イベント	8.9	89
インターネット、パンフレット、ポスターなどの解説	4.7	47
その他（具体的に	4.5	45
参加したことがない	40.4	404



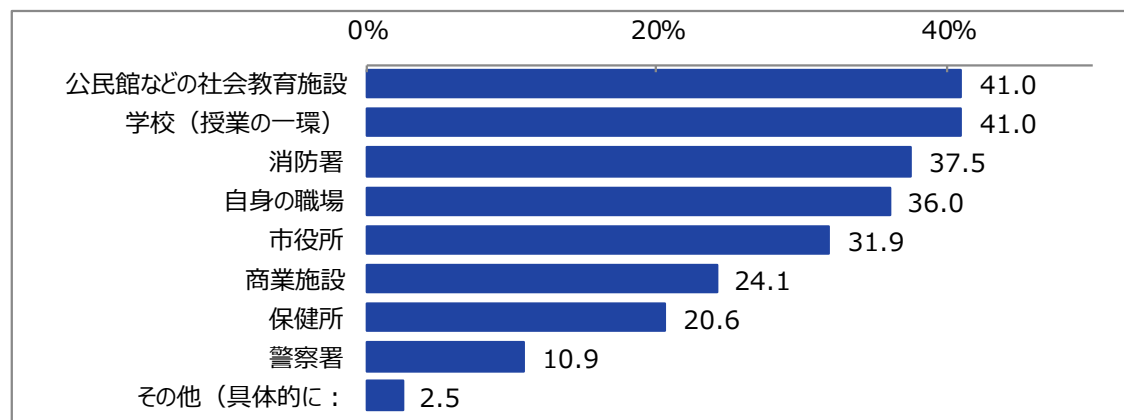
## 12 応急手当の講習を受けたい場所

◇ 「公民館などの社会教育施設」と「学校（授業の一環）」がいずれも41.0%で最も高く、次いで「消防署」が37.5%、「自身の職場」が36.0%と続く。

Q12. A E Dの使い方を含む応急手当の講習をどこで受講できると良いですか。あてはまるものをすべて選んでください。

MA

	%	n
全体	100.0	1000
公民館などの社会教育施設	41.0	410
学校（授業の一環）	41.0	410
消防署	37.5	375
自身の職場	36.0	360
市役所	31.9	319
商業施設	24.1	241
保健所	20.6	206
警察署	10.9	109
その他（具体的に：	2.5	25



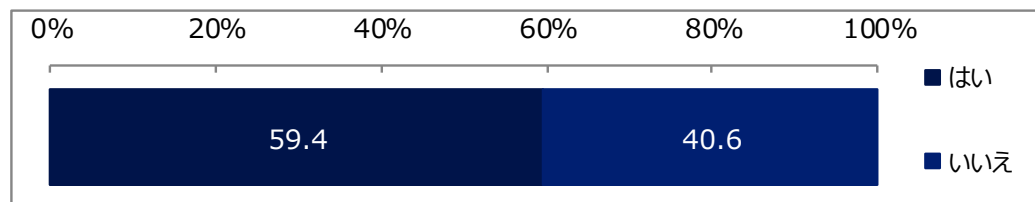
## 13 身近なA E Dの設置場所の認知状況

◇ 設置場所を知っているかどうかについて、「はい」が59.4%となっている。

Q13. 自宅や職場など身の回りのA E D設置場所を知っていますか。（1カ所でも把握している場合は、「はい」にご回答ください）。

SA

	%	n
全体	100.0	937
はい	59.4	557
いいえ	40.6	380



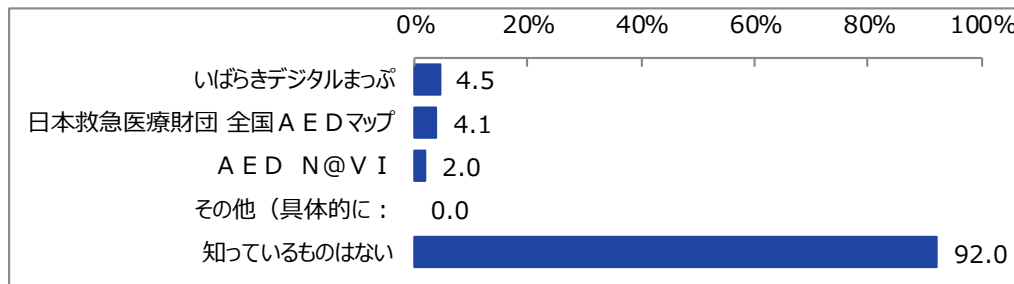
## 14 A E Dの設置施設を検索できるインターネットサイトの認知状況

◇ 「知っているものはない」が92.0%となっている。

Q14. A E Dの設置施設を検索できるインターネットのサイトがあります。あなたが知っているものをすべて選んでください。

MA

	%	n
全体	100.0	937
いばらきデジタルまっぷ	4.5	42
日本救急医療財団 全国A E Dマップ	4.1	38
A E D N@V I	2.0	19
その他（具体的に：	0.0	0
知っているものはない	92.0	862



## ■調査の目的

県民の救急医療資源の適正利用を促すため、県で実施する「茨城おとな救急電話相談（＃7119）」と「茨城子ども救急電話相談（＃8000）」について、県民の認知度等を調査し、今後の普及啓発活動の参考とする。

また、県民が救命講習を受講しやすい体制づくりを推進するため、県民の応急手当についての理解、意識を調査する。

## ■実施概要

- ・実施期間 令和2年9月18日～9月28日
- ・サンプル数 茨城県常住人口調査（令和2年4月1日現在）に基づく性別・年代・居住地（5地域）の割合で割り付けた18歳以上の県民1,000サンプル

回答者数（人）

		県北	県央	鹿行	県南	県西	計
全体		205	160	96	348	191	1,000
性別	男性	106	80	51	178	99	514
	女性	99	80	45	170	92	486
年代別	18～29歳	33	27	16	65	33	174
	30歳代	34	28	18	62	32	174
	40歳代	46	37	21	81	42	227
	50歳代	45	33	19	69	38	204
	60歳代	47	35	22	71	46	221

県北：日立市，常陸太田市，高萩市，北茨城市，ひたちなか市，常陸大宮市，那珂市，那珂郡，久慈郡

県央：水戸市，笠間市，小美玉市，東茨城郡

鹿行：鹿嶋市，潮来市，神栖市，行方市，鉾田市

県南：土浦市，石岡市，龍ヶ崎市，取手市，牛久市，つくば市，守谷市，稲敷市，かすみがうら市，つくばみらい市，稲敷郡，北相馬郡

県西：古河市，結城市，下妻市，常総市，筑西市，坂東市，桜川市，結城郡，猿島郡

(注)

1. 「ネットリサーチ」の回答者は、民間調査会社のインターネットリサーチモニターであり、無作為抽出された調査対象者ではない。
2. 割合を百分率で表示する場合は、小数点第2位を四捨五入した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体を示す数値とが一致しないことがある。
3. 図表中の表記の語句は、短縮・簡略化している場合がある。